

平成 27 年 度



第 2 号

練馬区立旭丘中学校：発行 5月

無限の努力を

校長 山谷 安雄

最近読んだ新聞のコラムにニトリの社長の自著伝が載っていました。自分自身と照らし合わせて、読んで中で、印象に残ったところを話していきます。「賢いやつは慢心するし、できると怠けたりする。素直に柔軟にこつこつとやるのが大事だ。鈍重たれ。」「ウサギよりカメが勝つ。」また、JAL を再建した稲盛和夫氏は「誰にも負けない努力をする。」と言うことを述べています。今の日本を代表する財界の方がこのようなことを述べていることに驚きを感じました。努力は人を裏切らないと言った人もいますが、努力する人が少なくなった今だから、これらの言葉が心に響くのかもかもしれません。

また、最近の世の中の方向としては、効率化を求め、結果を数字で求められることが多くなりました。日本の研究の最先端の理化学研究所でも、目に見える結果を求められるそうです。しかし、最先端の研究は、失敗の連続です。思った通りの結果など出る方が珍しいです。特に、基礎的な研究は、地道な実験の連続になることが多いです。IPS 細胞の実験でも、教科書の内容を変えるような発見は、多くの失敗があったからこそノーベル賞をもらったわけです。青色発光ダイオードでも同様な失敗の連続だったわけです。結果だけで見ると、努力と関係なく運が良かったとか才能があるからと思ってしまう人が、世の中にはいるような気がします。

さて、私は、職人と呼ばれる人、志す人が好きです。自分に卓越した素質がない人は、職人として、道を極めることが一番良いと思っています。私の父は、大正生まれで、何の取り柄もなく勉強も嫌いだったそうです。そんななかで、親（祖父）は、一人で生きるための仕事を身に付けさせるために、親戚の親方のところに奉公に出したそうです。他人が1年で身に付くようなことを父は3年も5年もかかったようです。子どもである私には、何も話したことはありませんでした。しかし、職人は辛抱すれば、ある水準の技術を身に付け、生活することができます。ただ、辛抱が人並み外れているのも確かです。昔ですから金槌で叩かれたり、人権だとかは皆無の時代だったので大変だったようです。そして、一人前の職人になり、生活できるようになりました。しかし、父と同じ仕事に就いた人で、器用で簡単に技術が身に付いてしまい、見よう見まねで何でもできてしまう職人がいました。すると、その人は手を抜くことを覚えてしまったようです。最終的に、何が原因だったかは分かりませんが、その職人のことは話題に出なくなりました。私の想像ですが、器用すぎて、無駄を省き、利潤を追求する中で、職人としての本分を忘れてしまったのだと思います。私は、愚鈍なまでに努力するそんな人を応援したいと思っています。今の時代様々な情報が入ってきて、これは努力しても無駄だとか、自分の上には何人いて、合格者は何人だから、自分は無理だと計算してしまう人が多い中、全力で努力し続ける人がいたらこんな素晴らしいことはありません。生徒達にも先を計算しないで努力をしてもらいたいと思います。数年後に数十年後に結果が出てくると確信しています。

【生徒の活躍】

部活動

- ・バドミントン部 練馬区春季大会
団体：男子 6位 ブロック大会出場
個人：男子 ダブルス 5位 宗像・下野組
女子 ダブルス 5位 倉本・曾根原組 シングルス 6位 吉川
- ・野球部 練馬区春季大会
1回戦 2 - 4 谷原中学校 負け
- ・サッカー部 春季大会 1回戦敗退
練馬区総合体育大会出場
- ・バスケット部男子 (豊二中合同チーム) 第3ブロック出場
- ・バレー部女子 (大泉中合同チーム) 練馬区春季大会予選リーグ 1勝2敗
- ・演劇部 4 / 16 校内で新入生歓迎公演 「我等之友情永久的二不滅歩以」

校外学習

- ・D組 5月8日(金) 旭丘小学校特別支援学級の児童2名と一緒に日和田山に出かけました。
- ・1年生 5月14日(木) お台場方面で班別の校外学習を行いました。D組の生徒7名も各班に入り、リス-ピアや科学技術館をまわりました。
- ・2年生 5月15日(金) 鎌倉方面で班別の校外学習を行いました。D組の生徒2名も班に入り、鎌倉の大仏や銭洗い弁天等を見学しました。

【これからの行事】

- ・5月30日(土)本校校庭で運動会を予定しています。運動会の練習が18日から始まりました。
- ・6月12日(金)～15日(月)D組の移動教室が岩井方面で実施されます。
- ・6月24日(水)から定期テストです。

【その他】

- ・5/18から教育実習生と一緒に勉強します。鈴木明生先生(國學院大學)です。学級は2年A組、教科は社会科です。
- ・6月10日に予定されていた学校保健委員会は、3年生の生徒保護者対象に、3月に開催いたします。ご了承ください。